

高隈演習林での捕まえたものは？

特定非営利活動法人奄美野鳥の会会長 鳥飼久裕

2017年度の客員研究員として、4月と11月に一週間ずつ鹿児島大学農学部附属高隈演習林で鳥類の調査をさせていただきました。目的は大隅半島と奄美群島の渡り鳥の連続性を検証すること。春の渡りのときには南西諸島から飛び立った鳥が大隅半島を経由して日本全土へ北上、秋の渡りのときには日本全土から集まった鳥が大隅半島を経由して南西諸島へ南下するのではないかと仮説を立て、中継地の大隅半島で標識調査をおこないました。

この調査のためには、かすみ網で渡り鳥を捕まえ、足環をつけて放鳥する必要があります。ところがどうしたことでしょう。渡り鳥があまり捕まらないのです。高隈演習林があるのは垂水市の高峠付近、大隅半島のほぼ中央というロ

ケーションです。もしかしたら、調査地の選定を間違えたのかもしれません。渡りの状況を正確にキャッチするには、大隅半島の先端である佐多岬に近い場所で調査をしたほうがよかったとあとから気づきました。

結局、一年限りの客員研究員という立場での研究は中途半端に終わってしまい、なんらかの形で再度挑戦したいと考えているのですが、渡り鳥が捕まらない代わりに意外な獲物が捕まるという予想外の成果もありました。春はコウモリがたくさん捕まり、秋はスズメバチが次々とかすみ網にかかったのです。コウモリには網を噛み切られるし、刺されないようにスズメバチを外すのには難儀するし、ふだんできない勉強をさせていただきました。



かすみ網にかかったキクガシラコウモリ。はじめて捕まえました。